

三村靖行議員

企業誘致について

三村 高梁市は急速に人口減少が進んでいる。地域人口を少しでも維持するため、若者流出を防ぐ手段として企業誘致を市の主要施策として、新しい課を設置し、職員を増員して進めるべきではないか。

市長 企業誘致には、研究施設や製造業などの誘致があるが、若者が就職で希望の職種がないということもある。今後、誘致施策を総合的に調整し、産業振興課の中で体制を整えていきたい。

ゴミの減量化について

三村 人口は減少しても家庭ごみは減らない。資源ごみと分別できないのであれば、ごみ袋へ名前を記入する制度にしてどうか。
市民生活部長 記名にはメリット、デメリットがある。今後、有料化

人口減少の打開策として企業誘致をメイン施策に

や事業者手数料の値上げなどの検討をしていく中で研究する。

公共交通について

三村 多額の費用が投入されているが、効果が表れてない。利用率が低いのは料金と出発時間が原因。変更できないのか。
市民生活部長 地域の要望にこたえられる環境を整えば、それにこたえていきたい。

観光交流人口について

三村 吹屋地区へ通じる高梁坂本線が未改良である。早く改良に着手するべきではないか。
土木部長 毎年県に要望を行なっている。現在2カ所で改良が行われている。

三村 神原荘の今後の利用は。
産業経済部長 旧「朝霧温泉ゆ・ら・ら」の事業者が決定したら、その後協議を行う。

森和之議員

高梁雨水ポンプ場整備事業について

森 高梁雨水ポンプ場に設置される4号機ポンプは、設置を完了しているのか。

土木部長 今年の出水期に設置完了しているのが望ましかったのだが、事業費も大きい工事のため令和3年度内になった。ご理解いただきたい。

森 令和3年度完成と聞けば、被害にあった住人は、出水期までには設置されるだろうと思っていたはず。1日も早い4号機ポンプの設置を強く要望する。

森 この4号機ポンプの設置により、高梁市街地の浸水は軽減されるのか。

土木部長 排出能力が1.5倍になり、十分排出できると思う。

市民に不安を抱かせない市街地の防災を

新消防庁舎整備事業について

森 住民への説明は十分に行われているのか。

消防長 建設地に関係する2つの町内会に相談したところ、コロナ禍を憂慮して文書での説明を希望された。全戸に説明資料を配布している。今後も事業の進捗状況に合わせて説明を行っていく。

森 建設地は内水や外水による浸水も想定されるが、改善の予定はあるのか。

消防長 高梁川からの外水の流入、内水排除については、河川整備計画の中で協議が行われるものだと思う。

森 消防機能を優先する設計は間違っていないが、浸水のあった地域の安心と安全が得られるように、河川整備計画の中で、しっかりと協議することを要望する。

森上昌生議員

市内各所に猫に関する看板があるが被害軽減の効果はあったのか

森上 広報活動だけで、野良猫が減ると思わない。飼養者のモラル向上は期待できても、今いる野良猫は誰が責任を持つわけではないので減ることはないのでは。

市民生活部長 無責任な餌やりに対するモラルの向上を図る。

森上 野良猫は統計上4年から5年は生きると言われている。その間かなりの回数で、妊娠を繰り返すが、餌をやらぬことで、野良猫が減るのか。

市民生活部長 野良猫に餌をやることで、野良猫が減るといいう科学的なエビデンスはない。餌を与えることで妊娠の機会を促すということも考えられるので、まず

市は野良猫問題に積極的に関わるべきでは

は飼育マナーの向上を図る。

森上 野良猫に餌をやるなどという文言は、TNR活動の妨げともなる。TNR活動は実際に野良猫を減らす非常に有効な方法だ。市はTNRを実施する予定はあるのか。

市民生活部長 この活動は市民が主導されて、地域の合意を得て行われることが重要と考え、市民活動として継続してほしい。

森上 TNRと地域猫活動を勘違いしていないか。

ピースワンコ・ジャパンのその後について

森上 西山犬舎の飼養状況は。
市民生活部長 情報公開及び個人情報保護審査会に諮問された案件で係争中のため、公平性を期して答えを控えたい。

TOPICS

産業経済委員会 管内行政視察

岡山自動車道付加車線設置工事(4車線化工事)に伴う盛土場整備工事視察

4月22日、産業経済委員会が、岡山自動車道付加車線設置工事(4車線化工事)及び同工事に伴い、市が整備している盛土場の進捗状況等を視察しました。

岡山自動車道の付加車線設置工事については、対面通行となつている賀陽インターチェンジから北房ジャンクションまでの21・3kmの区間で、順次4車線化に向けた工事が進んでいます。今年3月には全線で4車線化になることが決定されましたが、既に賀陽インターチェンジの北2kmや高梁サーブイエリアの北2.7kmでは4車線での運用を始めています。

なお、現在、有漢トンネル付近の工事を行っており、残りの区間を含め全線で4車線化工事が完了するには、さらに10年程度を要する見込みです。

また、この工事による発生土の処理については、市が事業主体となり、有漢町内8カ所に盛土場を

整備しています。このうち、大塚盛土場は約16万㎡の土を受け入れることができ、この日も大型ダンブによる搬入が行われており、安全面に十分配慮した工事が行われていました。

岡山自動車道の完全4車線化が実現すると、物流や観光客等の大幅な増加が見込まれるとともに、通行時の安全性の向上、早期交通機能の確保等が図られます。議会としても、山陽と山陰を結ぶ重要な路線として、早期完成を要望していかなければなりません。



整備された上大谷盛土場